

1668年にヨハネス・フェルメール(1632~75)の手によつてカンバスに油彩で描かれた、縦50センチ、横45センチほどの小品である。窓に面した書斎の中で、机の上にある天球儀を右手で回転させようとしている男。思慮深そうな面立ちの男は緑の長衣を着ている。アントニ・ファン・レーウエンフックがモデルだったともいわれている。近代細菌学の祖である。近代細菌学の教科書は彼の記述で始まる。天球儀はヨドクス・ホンディウス作。同じものが一点だけ現存している。覆いのかかった机にはコンパス、アストロラーベ、そして開かれた本が載っている。アドリアーン・メティウス著「天文・地理学 集成天球儀と地球儀を利



やまもと たろう
山本 太郎

天文学者

用した天文術基礎研究及び地理記述」(「星の研究と観察」第3巻・第2版)で、その冒頭2ページが開かれているという。

壁の奥の絵は、画中画で、「モ

ーゼの発見」(出エジプト記)が描かれている。モーゼは地理学・天文学にも縁があった。この絵は、第2次世界大戦中、ナチス・ドイツによって略奪されるが、皮肉なことに当時のドイツ帝国総統はそのことを知らず、作品を称賛した可能性が高いという。作品は、1945年、ドイツの敗戦と同時に、本来の所有者ロートシルトフランスマ分家に返還され、82年にロート

息子にヨーロッパの都市で銀行業を開設させた。フランクフルト、ウィーン、ロンドン、ナポリ、パリである。200年後の現在、ロンドンとパリの分家がなお活動を続けている。パリのロートシルト家は、1870年に資金難にあえぐバチカンに資金援助を行い、その後、バチカン銀行の資金管理を行う主力行となっている。

シルト家からルーブル美術館に寄贈された。ロートシルトは「赤い盾」を意味する。創始者のマイアー・アムシエル・ロートシルトは、1800年代初頭に、5人の

(長崎大熱帯医学研究所教授)